

数字の小道

①観光について

総務部 調査企画課

はじめに

内閣府では、沖縄振興計画に基づき、自立型経済の構築を目指して、沖縄の産業振興を支援しています。内閣府が行う各種支援策と沖縄県及び県民等のたゆまぬ努力の結果、観光・リゾート産業をはじめ様々な分野で一定の成果がみられ、県経済は自立に向けて歩みを進めています。

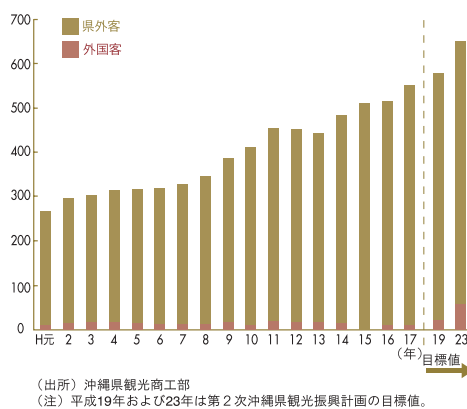
この特集では、これからの一年間全七回にわたり、県経済に関する各種のデータを取り上げながら、沖縄振興の現場を紹介していきたいと思っています。

今回は、第一回目として、沖縄のリーディング産業である観光について紹介します。

沖縄観光について

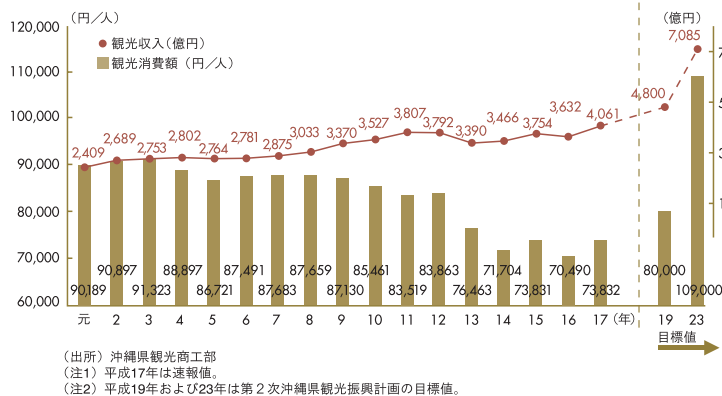
沖縄県では亜熱帯性気候の下、美しい海と豊かな自然、独自の歴史・文化等を背景として、年々観光客数が増加しており、平成十七年の観光客数は目標値の五四〇万人を突破し、過去最高の五五〇万人となりました(図1)。

図1 観光客数の推移



しかしながら観光収入についてみると、観光客数の増加に比べ伸び悩んでいます。観光ニーズの多様化、また団体旅行から個人旅行へのシフトなどの変化が見られる中、質の高い観光メニューの定着化を推進すること等が課題となっています(図2)。

図2 一人あたり観光消費額および観光収入の推移



一方、沖縄への観光目的について、平成十五年度の沖縄県観光客満足度調査を見ると、「観光地めぐり(周遊型観光)」が最も高く、次いで「海浜リゾートを楽しむ(海水浴、ダイビングなど)」、「沖縄の文化(祭り、イベント、工芸、食など)」を楽しむという順になっています。前回平成十二年度の調査と比較すると、「観光地めぐり(周遊型観光)」が六八・二%から五四・八%へ十三・四ポイント

に学び、共に感動し、互いに感謝し合うことをモットーに、体験学習に関する文化、自然に親しむプログラムを用意し、体験型観光として受け入れています。

それでは、平田さんにこのプログラムについていくつかお聞きしたいと思います。

Q プログラムメニューはどのようなものがあるのですか？

A プログラムの内容は、伝統菓子や料理を作る「食に学ぶ」、三線、エイサーを学ぶ「伝統芸能に学ぶ」、サトウキビなどの収穫を体験する「農に学ぶ」、ハーリー競漕や舟釣り・浜釣りを体験する「海に学ぶ」といった六つのテーマ十五種類で構成されています。

Q 恩納村で体験学習事業を始められたきっかけは？

A 本土のある高校から、「沖縄の文化を体験したい」という依頼があり、せっかく来てくれたのだから楽しんでいってほしいということで、地元の方々に講師を迎えこの事業を始めました。始めた当初は、講師の確保に大変苦労しましたが、第一回目を平成七年にスタートさせてから、平成十六年には年間二百二十五校一万二千人以上の生徒を受け入れるまでにになりました。今後ますます需要が増えていくことが予想されており、新たに生涯学習と体験学習を併せたプログラムの開発も考えています。

Q 体験学習参加者と指導者の反応は？
A 参加者はプログラムに真剣に取り組み、楽しみながら沖縄の文化を学んでいるようです。また、指導する地元の方々は参加者と

の新しい出会いを楽しみながらも、生徒に教えることで刺激を受け、学習意欲が高まっています。

Q 体験学習を行う上で気を付けていることは？

A 実際に体験をする際には、道具を使ったり、自然の中で活動したりするため、絶対に安全ということはありえません。ですから、天候や状況によっては中止をためらわず、プログラム内容には安全性と継続性を重視しています。

Q この取り組みで大切にしていることは？

A 地元の人たちと触れ合って、さりげない会話の中から感動があるよう願っています。私たちはフィールドも人材も地元地域にこだわりたいし、またそうすることで地域からの支援、協力を得て、地域密着型の事業にしたいと考えています。なぜなら地域からのバックアップがなければこの事業は成り立たないからです。



さとうきび刈り



琉球舞踊

内閣府の支援について

内閣府でも、心の豊かさや癒しを求める国民の価値観やライフスタイルの変化、健康志向の高まりなど多様なニーズに対応した質の高い観光・リゾート地の形成を支援しています。

このうち「沖縄体験滞在交流促進事業」で

表1 沖縄体験滞在交流促進事業

平成18年3月現在

市町村名	名 称	プログラム例及び主な施設
北大東村	「うふあがり体験滞在交流促進事業」	●プログラム例 植物群落の散策、ダイオウオコウモリの観察、カヌーツアー、郷土料理体験、大東太鼓体験、戦跡体験、開拓の歴史ツアー等 ●主な施設 調理及び食の交流広場、熱帯魚観察プール、釣り場、散歩道等
知念村	「沖縄・日本のルーツが見える心のふるさと整備事業」	●プログラム例 世界遺産(斎場御嶽)学習体験、神々の島体験、自然体験、ハーリー体験、星空観察、シーカヤック体験、薬膳料理体験等 ●主な施設 体験交流センター、海洋体験施設、歴史学習体験施設等
多良間村(旧上野村と連携)	「博愛の島、パティオたらま体験交流事業」(多良間村)「博愛んみゃーち交流事業」(旧上野村)	【博愛の島、パティオたらま体験交流事業】 ●プログラム例 トレッキング体験、史跡巡り体験、シーカヤック体験、シュノーケリング・ダイビング体験等 【博愛んみゃーち交流事業】 ●プログラム例 追い込み漁体験、マンゴー収穫体験、宮古焼き体験、宮古織物体験、黒糖づくり体験、農家の一泊体験等

沖縄体験滞在交流促進事業とは・・・平成13年度から、市町村が実施する体験滞在プログラムの作成、インストラクターの研修及び体験提供施設の整備等の支援を行っており、これまでに訪谷村をはじめとする7町村で事業が完了しました。

今回は、恩納村商工会にご協力いただき、恩納村の体験滞在型観光の現状についてお聞きしました。平田さんをはじめ恩納村商工会の皆様どうもありがとうございました。

地元の方々との交流を通して、体験者が沖縄を知り、地元の方々も沖縄を再び知ること、観光の質の向上に加え文化の振興も図られるのだと感じました。今後も体験滞在型観光は、より一層重要な役割を果たしていくのだと思います。

(調査企画課 中條由子・仲嶺真史)

編集後記

平田さん(上写真)からお話を伺いました。恩納村商工会では、地域住民が参加する「出会いとふれあい」というテーマのもとで、共

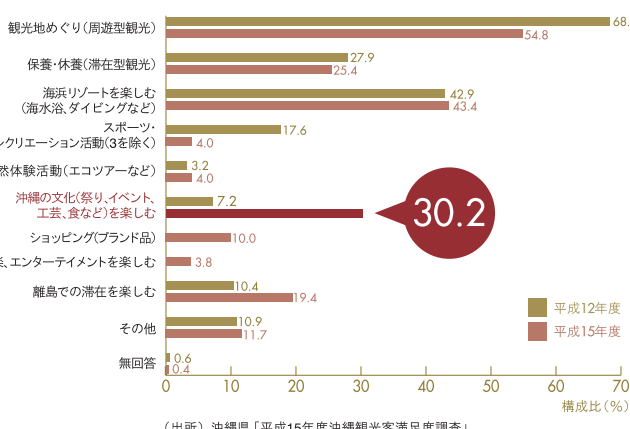


体験型観光の現場から

〜恩納村商工会インタビュー〜

今回は、体験滞在型観光プログラムに取り組んでいる、県内における体験型観光のパイオニアの一人である恩納村商工会の

図3 沖縄への観光目的



そこで、沖縄の自然、歴史、文化等、地域資源や特性を生かした、体験滞在型観光について注目してみました。

「沖縄の文化(祭り、イベント、工芸、食など)」を楽しむ」が七・二%から三〇・二%へと大幅な伸びを示しています。このことから、沖縄文化への関心の高さが推測されます(図3)。